

教育長紹介



山形県

たかはし こうき
高橋 広樹

「子どもが主体的に学びに向かうためには『学びの動機付け』が大切であり、そのキーワードは『感動』や『驚き』である。具体的には、外国はじめ、多様な文化・考えに接する『交流』を進めることが重要。」と、未来を担う子どもたちの学びに向けた思いを語る。

「ICTを効果的に使えば、個々の学力に応じた学びやさまざまな『交流』ができる。研修やフォーラムを通して先進事例を普及し、教育現場におけるICTの可能性を発揮させたい。」と意欲を示す。

昭和56年、山形県に入庁。企画調整課長、人事課長、総務部次長、企画振興部長などを経て退職。平成29年より企業管理者を務め、本年4月に教育長に就任。64歳。

(山形県教育庁教育政策課長 庄司 雅人)



福島県

おおぬま ひろふみ
大沼 博文

「一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく『学びの変革』と、教職員の働き方改革など『学校の在り方の変革』を進める」と抱負を語る。

また、復興・創生に向けて、本県の未来を創造していく上での最重要施策は教育であるとし、「福島の良いをいかした『福島ならではの教育』を進め、誰一人取り残さない、一人一人が主役となる教育の実現に取り組む」と意欲を示す。

昭和56年に福島県立高等学校教諭となり、県立勿来高等学校長、県教育庁高校教育課長、県教育庁理事兼教育次長、公益財団法人県文化振興財団理事長などを経て、本年4月に教育長に就任。63歳。

(福島県教育庁教育総務課長 堀家 健一)



茨城県

もりさく よしたみ
森作 宜民

「教育は、子どもたちはもとより、人々がより良い社会を構築していくうえで重要な機能を持つ。特に、予測困難な時代を生きる子どもたちが一人ひとりの夢や希望を叶えることができるように教育環境を整え、最適な学びを提供することが教育に携わる者の責務」と決意を述べる。

その実現のためには、「まず目的を明確にして共有することが大切であり、個々の施策は目的達成のための手段」と話す。

そして、目的達成のため、「我々教育に携わる者すべてが誇りと責任感をしっかりと持ち、各々の施策が最適な取り組みとなるように常に見直しを行いながら、教育改革を全力で進める」と熱く語る。

昭和58年、茨城県公立中学校教員として採用。ニューデリー日本人学校、神栖市立波崎第一中学校長、学校教育部義務教育課長、学校教育部長、教育庁教育改革推進監などを歴任し、本年4月に教育長に就任。61歳。

(茨城県教育庁総務企画部総務課長 木内 規雄)



栃木県

あ く さ わ し ん り
阿久澤 真理

「命の大切さを第一に考える教育を基盤に、栃木の子どもたちが自らの可能性を信じ、様々な困難を乗り越えながらたくましく育ち、豊かな人生を切り拓くことができるよう、市町教育委員会と連携しながら全力で取り組んでいきたい。」と意欲を語る。

信条は、変化への柔軟な対応。「変化を前向きに捉えて転機とする。挑戦する気持ちも重要だ。」と強い信念を抱く。

昭和59年に栃木県庁に入庁。こども政策課長、経営管理部次長兼人事課長、総合政策部長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60歳。

(栃木県教育委員会事務局総務課長 大森 豊)



東京都

は ま か よ こ
浜 佳葉子

「子供たちにとって何が最適かという視点が重要。職員一体となり知恵を出しあっていきたい」と意欲を示す。「都は、本年4月に新たに設置した「子供政策連携室」を中心に、子供に関わる複合的な課題に対応し、教育や福祉の枠組みに捉われない幅広い視点で先進的な事業を展開していく。いじめ、ヤングケアラーといった子供たちを取り巻く様々な課題が顕在化しているが、社会全体で子供を育てていく気運が高まっており、教育委員会が果たすべき役割は大きい」と抱負を語る。

昭和60年に入都。福祉保健局少子社会対策部長、港湾局総務部長、生活文化局長、水道局長などを経て、本年4月に教育長に就任。59歳。

(東京都教育庁総務部教育政策課長 軽部 智之)



神奈川県

は な だ た だ お
花田 忠雄

「コロナ禍においても、全ての子どもたちに学びを保障し、生き生きと活動できる教育環境の整備に向けて、県及び市町村教育委員会が一丸となって取り組みたい」と抱負を語る。

そのため、「インクルーシブ教育のさらなる推進や、県立高校改革の取組、さらには、教員の働き方改革に向けた施策にしっかりと取り組んでいきたい」と意欲を示す。

昭和60年に神奈川県に入庁。教育環境整備担当部長、くらし安全防災局長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(神奈川県教育委員会教育局総務室長 市川 秀樹)



新潟県

さの てつろう
佐野 哲郎

「本県教育の基本理念である『一人一人を伸ばす教育』の実現に向け、児童・生徒が、将来に夢や希望を持って挑戦を続け、未来を切り拓いていける教育環境を整えていきたい。」と抱負を語る。

また、「学校が安心・安全な学びの場であり続けられるよう、いじめ・自殺防止対策や、子ども・家庭の状況に応じたきめ細やかな支援に努めるとともに、ICTも活用した、多様な学びの場の創出、さらには、学校・地域・家庭が相互に連携し、子どもが成長できる環境づくりにも取り組んでいきたい。」と意欲を示す。

昭和61年新潟県庁に入庁。知事政策局行政改革推進室長、政策監兼政策課長、総括政策監、観光局長、産業労働部長などを経て、本年4月に教育長に就任。60歳。

(新潟県教育庁総務課長 吉澤 隆)



石川県

きたの よしき
北野 喜樹

「多様化・複雑化する社会をたくましく生き抜く人材を育てるため、石川の教育の更なる発展を目指したい。」と抱負を語る。

そのために、「県と市町が教育現場における諸課題を共有しながら、ふるさと石川に誇りと愛着を持ち石川の未来を拓くための、教育による人づくりに向け、具体的な取り組みをしっかりと進めていきたい。」と意欲を示す。

昭和59年石川県庁に入庁。行政経営課長、財政課長、企画振興部次長、健康福祉部次長、健康福祉部長等を経て、本年4月に教育長に就任。62歳。

(石川県教育委員会事務局庶務課長 太田 大樹)



山梨県

てしま としき
手島 俊樹

「子どもたちが自分の可能性に気づき、自己肯定感や志、挑戦する姿勢を持てるよう、教育の充実に努めていきたい」と抱負を語る。

また、「本年度の入学生から高等学校等の新学習指導要領が年次進行で実施される。個別に最適な学びと協働的な学びという、二つの両輪をバランス良く回していけるような教育活動の実現に努めたい」と意欲を示す。

昭和59年に山梨県立高等学校教員として採用され、高校教育課長、県立甲府西高等学校長、教育監などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60歳。

(山梨県教育委員会事務局総務課教育企画室長 望月 勝一)



静岡県

いけがみ しげひろ
池上 重弘

これまで大学教員として長く教育・研究に携わった経験から、「教育の本質は、何かを教え込むことではなく、人間の持つ可能性の開花をサポートすることである」と信念を語る。

また、静岡県が進める「有徳の人」づくりに向けて、「この地に暮らす誰もが人生の夢を実現し、幸せを実感するための基盤づくりが重要であり、そのために、全県を挙げて『誰一人取り残さない教育の実現』に取り組みたい」と意欲を示す。

平成3年に北海道大学助手として採用。平成8年より静岡県立大学短期大学部専任講師、静岡文化芸術大学教授、同大学副学長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(静岡県教育委員会教育総務課長 井出 好彦)



愛知県

いいだ やすし
飯田 靖

「新入試制度の実施、県立高等学校の魅力化・特色化、中高一貫教育制度の導入の可能性の検討、特別支援教育の充実、ICTを活用した教育、学校における働き方改革などの様々な課題に全力で取り組んでいきたい。」と抱負を語る。

また、「県が、これら教育施策に全力を傾注することはもちろんであるが、社会全体で子供たちを育てていくことが何よりも重要ではないかと考えている。教育長として、子供たちの未来のために精一杯努力していきたい。」と意欲を示す。

昭和60年に愛知県職員となり、スポーツ局長、企業庁長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60歳。

(愛知県教育委員会教育企画室長 大谷 健二)



兵庫県

ふじわら しゅんぺい
藤原 俊平

「変化の激しい予測困難な時代を迎える中、社会の変化に柔軟に対応し、未来への道を切り拓く力を育成する兵庫らしい教育を進めていく。今年度は小中学校での兵庫型学習システムの推進とともに、高等学校及び特別支援学校の教育改革など、将来にわたる教育課題に取り組むスタートの年となる。『兵庫、日本の未来を担う人づくり』という重責を果たすため、学びたいことが学べる学校、多様な教育的ニーズを踏まえ、一人ひとりの可能性を伸ばす学校づくりを目指し、全力で取り組んでいきたい。」と意欲を示す。

昭和62年兵庫県庁に入庁。企画県民部企画財政局長、知事公室長、防災監等を歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(兵庫県教育委員会事務局参事兼総務課長 吉田 克也)



高知県

ながおか もとやす
長岡 幹泰

「教員経験を生かし、これまで以上に学校や市町村教育委員会と子どもたちを中心に置いた対話を進めるとともに、家庭・地域・学校・関係機関との連携を強化していきたい。」と抱負を語る。

また、「これまでに進めてきた高知県教育振興基本計画の『チーム学校の推進』、『厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実』などの方向性に沿った各施策のPDCAサイクルをしっかりと回しながら取組を確実に進めていく。」と意欲を示す。

昭和58年4月に高知県公立学校教員に採用。県教育委員会事務局小中学校課長、教育次長、高知大学教職大学院特任教授などを歴任。本年4月に教育長に就任。65歳。

(高知県教育委員会事務局教育政策課長 鈴木 智哉)



長崎県

なかざき けんじ
中崎 謙司

「子どもたちがふるさとの自然や歴史、文化や産業、人々の営み等について体験的に学ぶことを通して、ふるさとへの誇りや愛情を育てていくため、市町と連携し、小中高一貫したふるさと教育をさらに推進したい」と意欲を示す。

「巧遅は拙速に如かず」をモットーとし、「できることから行動を起こし、前向きに改善を進めていく潮流をつくるのが課題突破の原動力となる」と信念を語る。

昭和60年長崎県庁に入庁。対馬振興局長、文化観光国際部長を経て、本年4月に教育長に就任。60歳。

(長崎県教育庁総務課長 桑宮 直彦)



熊本県

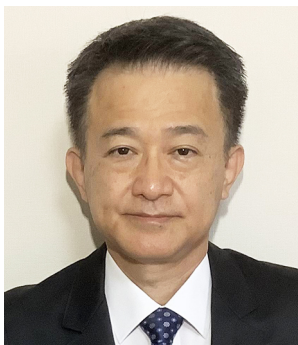
しらいし しんいち
白石 伸一

「子どもたちの夢を育み、夢を実現させるために何ができるかを相手の立場に寄り添って考え、組織の力を生かして全力で取り組む」と抱負を語る。

「新型コロナウイルス禍の中での学びの保障、いじめや不登校対策などの課題に十分に取り組むため、早急に教員不足に対応し、学校の働き方改革や教育の充実を図る。また、地域の熱意をくみ取りながら地域の学校として高校の魅力化に取り組む」と意欲を示す。

昭和60年熊本県庁に入庁。知事公室長、総務部長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。60歳。得意料理はスパイスカレー。

(熊本県教育庁教育政策課長 竹中 千尋)



沖縄県

はんみね みつる
半嶺 満

「施策や事業は子どもたちが育ってゆく姿が想像出来るものでなければならない」「子どもたちが自らの可能性を広げ、力強く生きぬく力を身につけさせたい。」
と意を語る。

新型コロナウイルスの影響による社会の変化を実感し、「学校の果たす役割が再認識される一方、変化してゆく社会で生きていくために変えていかなければならないものもある」「[不易流行]を念頭に置いた教育を進めたい。」

施策として「沖縄教育DX、キャリア教育、働き方改革に重点的に取り組んでいく。」と意欲を語る。

平成元年4月に沖縄県立高等学校教員に採用され、県立学校教育課長、県立具志川高等学校校長、教育指導統括監などを歴任し、本年4月に教育長に就任。59歳。

(沖縄県教育庁総務課長 諸見 友重)



大阪市

ただ かつや
多田 勝哉

「すべての子どもたちが、家庭の経済状況などの様々な社会的背景にかかわらず、等しく良好な教育をしっかりと受けられる環境をつくり、次代の大阪、そして日本を担う人材の育成に向け取組を進めていきたい。」と抱負を語る。

そのために、「安全・安心な教育の推進や未来を切り拓く学力・体力の向上、学びを支える教育環境の充実を着実に進め、ICT機器の活用や教員の育成を通じた教育の質の向上、子どもたちの健全育成・豊かな心の育成に取り組みたい。」と意欲を示す。

昭和58年大阪市役所に入庁。教育改革推進担当部長、総務部長、教育次長などを歴任し、本年4月に教育長に就任。57歳。

(大阪市教育委員会事務局総務部総務課長 村川 智和)



福岡市

いしばし まさのぶ
石橋 正信

「児童生徒の個性に応じた学びを引き出し、一人ひとりの資質・能力を高めていくことが重要である」とし、「ICTを活用した授業の実践や35人以下学級の本格実施など、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組んでいく。」と抱負を語る。

また、「多様な教育的ニーズのある子どもたちに対して、学校教育の多様性と包摂性を高めるとともに、特別支援教育の推進や夜間中学の運営、いじめ・不登校等の未然防止・早期対応、教育相談・支援体制の充実などの取組みを強化していきたい。」と意欲を示す。

昭和61年に福岡市役所に入庁、こども未来局長、住宅都市局長、教育次長等を歴任し、本年4月に教育長に就任。61歳。

(福岡市教育委員会総務部総務課長 早川 美由紀)